２（２）その他，特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果，世界的位置付けなど。（※評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容）

特筆すべき教育活動

1. 薬剤師認定制度認証機構より認証されたMCS (Master of Clinical Science) コースを継続し、平成20年度は総数8名（うち薬剤師 7名、臨床検査技師 1名）に対し、MCSの称号を認定した。
2. 特別教育研究経費「高度医療を担う次世代型専門薬剤師育成のための実践的臨床薬学教育システム構築」により、「生活習慣病治療薬学分野」および「がん化学療法薬学分野」を新設し、「医師に協力して処方設計に関与する薬剤師」という他大学にない新しいタイプの薬剤師教育システムの構築に取り組んでいる。
3. 薬剤師として活躍する社会人を対象とした博士課程前期２年の課程腫瘍専門薬剤師養成コースを開設した。平成20年度は 1名の入学者を得、医療チーム内で活躍できるがん化学療法専門薬剤師の育成を目指したカリキュラムを開始した。

特筆すべき研究活動

1. 倉田祥一朗教授と矢野環准教授のグループは、自然免疫に関する研究を押し進め、Nature Immunology 9: 908-916 (2008)、ibid 10: 134-136 (2009)に研究成果を論文発表した。これらは細胞内に侵入し、感染を拡大する細胞内寄生細菌に対する防御機構を明らかにすると共に、その感染防御に関する展望をまとめたものであり、自然免疫分野において世界的に高く評価されている。
2. 岩渕好治教授らは、広範なファインケミカル分野で重要なアルコール類のカルボニル化合物への酸化反応を触媒する試薬(AZADO)を開発し、商業合成に成功し、今年、世界上市(Sigma-Aldrich、和光純薬)した。成果の一部は高く評価され、平成18年日本プロセス化学会優秀賞を受賞している。
3. 大槻純男准教授は、「血液脳関門輸送」に関する優れた業績に対してInternational Society for the Study of XenobioticsからThe New Investigator Award 2008 (Asian Pacific Region)を受賞した。
4. 叶直樹准教授は、「有機合成化学を基盤とした天然有機化合物のケミカルバイオロジー」に関する優れた業績に対して2008年度機合成化学協会奨励賞を受賞した。

特筆すべき社会貢献活動等

１．附属薬用植物園の活動

附属薬用植物園は一般市民に対して開放しており、薬用植物や有毒植物の知識の普及や啓蒙に努めた。さらに、宮城県と宮城県薬剤師の協力のもとに設置された「日本薬用植物友の会」（会員数：約３００名）に対して、薬用植物観察の場を提供し、植物観察会や薬膳料理の講習会、講演会において、薬用植物に関する知識の啓蒙活動を行った。また、国際逐次定期刊行物として登録され、国立国会図書館にも寄贈されている友の会会報の編集においても中心的役割を果たした。加えて、「生薬・漢方薬認定薬剤師のための薬用植物園実習」を２回実施した。

２．生活習慣病やその合併症の発症の予防

今井　潤教授が中心となって行っている「大迫研究」は、生活習慣病やその合併症の発症の予防に貢献した。また、同教授が中心となり、降圧薬服用者の家庭血圧コントロールに関わる要因と予後・臓器障害との関連を明らかにするために推進している臨床疫学研究「J-HOME研究」は、個々の患者の治療に貢献するとともに、高血圧治療における薬物療法基準を示した。